

障害児・者に対する 施設指導者の発達期待について

田中 道治・和泉 義弘*

On the Developmental Expectancy of Instructors for the Handicapped

Michiharu TANAKA & Yoshihiro IZUMI

(Received September 1, 1998)

(i)

In this survey, inquiries were made to 30 instructors in institutions for children with handicap and 25 instructors in institutions for adults on their consciousness concerning development of the handicapped. Inquiries were made on the following eleven categories: ability of daily living, emotional stability, social communication, activity, regulation of behavior, use of money, attitude for occupation, social independence, and health. The main findings were as follows: (1) Factor analysis on the results revealed five major factors: motivation for social attitude, emotional stability and regulation of behavior, human relationship and self presentation, activity and ability of daily living. (2) Mean factor scores for two groups were different in motivation for social attitude and ability of daily living especially. (3) There was a developmental trend: Developmental expectancy of Instructors was higher in adults with handicap than children with handicap on the profile of 55 items.

key words : developmental expectancy, the handicapped, instructor

1 はじめに

指導者が子どもに対して抱く期待が、子どもの学習成績に大きな影響を及ぼす事実については、ピグマリオン効果 (pygmalion effect) として知られている。この指導者の期待効果については、かつて Rosenthal & Jacobson (1968) によって、各々の子どもへの指導者の期待、つまり「将来、知的に伸びる子」としての期待により、その子どもに対する接し方が、微妙に変化してきていることに由来すると考えられた。浜名 (1988) は、子どもの側から指導者の期待効果のプロセスを検討し、期待に沿う行動が子どもの学習量に影響する場合、および子どもの自己概念・統制感・動機づけといった内的過程を通じ、学習成績に影響を及ぼす場合の2つを区別した。

今泉ら (1988) は、教師の期待効果が親と子どもとの相互作用のなかで見い出されるか検討した。子どもの達成動機と親の日常的相互作用との関連の検討で、子ども的人格形成で達成動機のような人格の側面に関しては、親は共にその形成に関与し、その影響力は子どもとの日常の相互交渉のなかで展開される。また前田 (1990) によると、親の子どもに対する対人的能力の期待と、子どもの有能感 (社会的コンピテンス) との関係については、日常生活における母子間の肯定的相互作用により子どもは高い有能感や受容感を抱くようになる。換言すると、子どもの自尊心や

* 徳島県麻植郡中枝小学校

自主性は大人との相互作用によって形づくられると言えよう。

発達期待全体に注目して、詫摩ら（1985）は、良い子・悪い子像が発達期待全体のどういう側面の期待と関係しているか検討した。その結果、女兒に関しては性格的側面が発達期待のなかで全般的にその値が高く、一方、男児に関しては、勉強（学習）や運動などのスキルの側面が重視されることが明らかにされた。

さて、障害児に対する指導者の期待効果および親の期待効果についてはどうであろうか。彼らは周囲の大人から、「将来、知的に伸びる子」としての期待というよりも、発達期待全体の対象としてとらえられているように考えられる。あるいは、障害児・者はその種の期待をほとんどかけられていないかもしれない。

Bybee & Zigler（1990）は、精神遅滞児の動機づけ特性の一つである外的指向性を検討するなかで、指導者の側の発達期待が高くなればなる程、外的指向性の程度は強まることを見出し、指導者の期待の存在を明らかにした。しかしながら、Bybeeらは発達期待の指標をMA（Mental Age）によって便宜上定義しているのみであり、指導者の期待の種類及び程度については何ら言及していない。精神遅滞児の動機づけ特性と大人の発達期待との関連性を検討しようとする時、何よりもまず発達期待の構造を明らかにしておく必要がある。また、彼らは、精神遅滞青年を対象にしており、指導者の発達期待の構造を分析・検討しようとする場合に発達レベルを考慮する必要があろう。

以上から、本研究では、児童及び青年・成人入所施設において、指導者が障害児・者に日常生活場面でどのような期待をどの程度よせているのかに焦点をあて、指導者の期待の特徴を明らかにすることを目的とする。

調査 1

目 的

障害児施設および知的障害者更正施設の指導者が日常生活場面で障害児・者に対しどのような発達期待を有しているか、期待カテゴリーの特徴を明らかにすることを目的とする。

方 法

- 1) 調査対象者 T県の「精神薄弱児」施設の指導者 21名、および「精神薄弱者」更正施設の指導者 30名。
- 2) 調査内容 自由記述アンケートを適用する。この調査は、各指導者が担当の対象者について、「どんな場面で、どのような期待をもち、そしてどんなところを重視して指導しているか」、1項目以上具体的に自由記述するものである。
- 3) 調査期間と手続き 1995年5月から6月。施設単位で留め置きした。

結 果

- 1) カテゴリー分類 アンケート結果から、身体処理能力、情緒安定、社会・コミュニケーション、仲間、活動性、活動コントロール、金銭処理、作業態度、社会自立、余暇・充実、健康・運動の11カテゴリーを分類した。
- 2) サンプルとカテゴリー間の分析 個々の障害児及び障害者に対する期待項目について、11のカテゴリーに当てはめ2値データ評価を行った。そして、数量化第3類を用いて、2つの

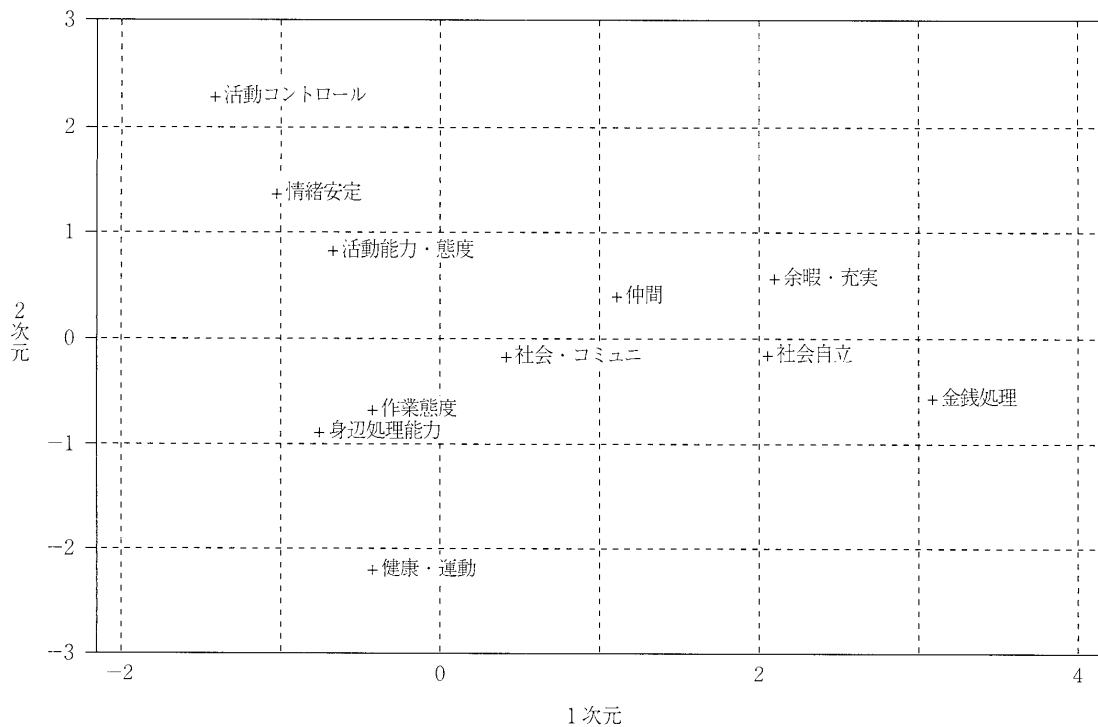


図1. 指導者の第1次元と第2次元による各期待カテゴリー構造

施設指導者における期待カテゴリーとサンプル間及び期待カテゴリー間の特徴をみた。

11 カテゴリーに関して数量化第3類による解析を行い、図1に示されるように、第1次元及び第2次元が抽出された。

カテゴリー変異とサンプル間の相関係数をみてみると、第1次元 $r = .768$ 、第2次元 $r = .697$ となった。どちらも正の相関が高かった。図1に示されるように、第1次元は全体的にみてプラス方向に強く、「金銭処理」「余暇・充実」「社会自立」「仲間」「社会・コミュニケーション」の順であり、社会的自立の促進カテゴリーに属するとおもわれる。これに対して、強くはないがマイナス側に向いているのは、「活動コントロール」「情緒安定」「身辺処理能力」「活動性」「作業態度」「健康・運動」であり、日常生活での基本的能力の充実カテゴリーに属するものである。したがって、この次元（軸）は社会的交流の意識カテゴリーと、基本的生活スキルの意識カテゴリーとを区分すると言えよう。

第2次元については、プラス側に「活動コントロール」「情緒安定」「活動性」「余暇・充実」「仲間」が位置し、これらは対人関係上の自己調整に関連するカテゴリーの集まりと解される。そして、マイナス側には、「健康・運動」「身辺処理能力」「作業態度」が集中しており、生活上の自己管理に関連するカテゴリーが集まっていると考えられる。故に、この軸は、自己調整および自己管理とを区分すると思われる。

次に、第1次元および第2次元上に各サンプルのサンプルスコアをプロットしたものが図2である。図2に示されるように、第1次元の正方向に障害者が比較的多くプロットされ、負方向に障害児が集中していることがわかる。そして、第2次元においては、第1次元で見い出されたような障害児と障害者との差異は示されなかった。

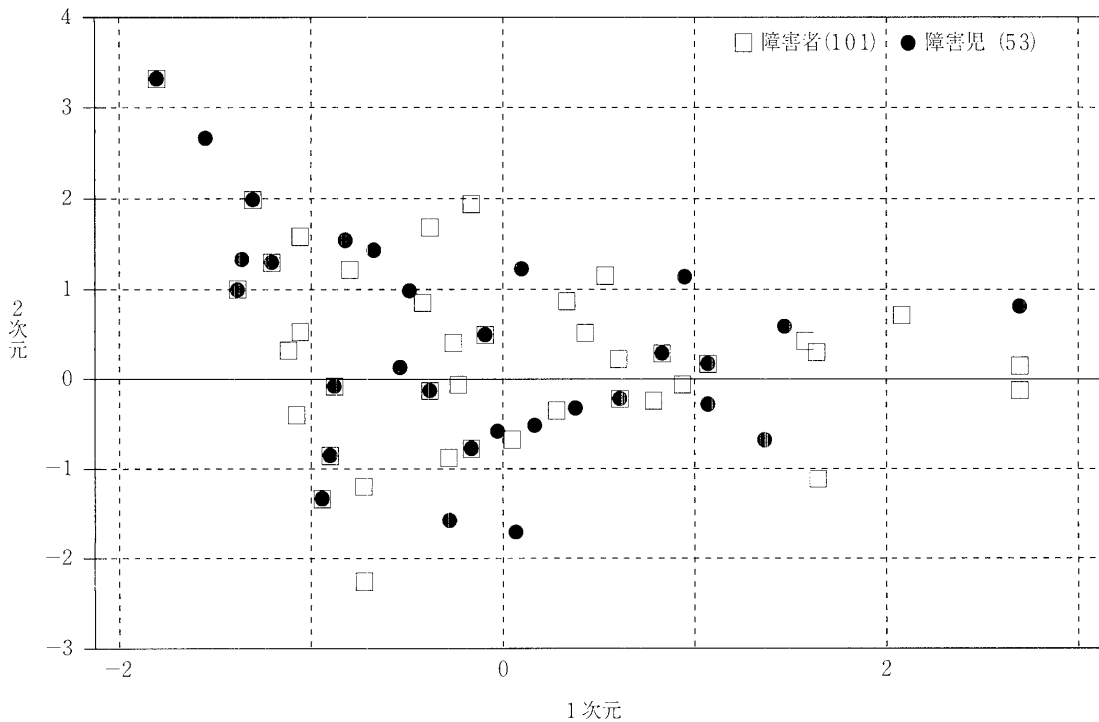


図2. 障害児・者の第1次元と第2次元によるプロット

考 察

自由記述アンケートによる期待カテゴリーの抽出を行ったところ、身辺処理、情緒安定、社会・コミュニケーション、仲間、活動性、活動コントロール、金銭処理、作業態度、社会自立、余暇・充実、健康・運動の11カテゴリーに区分された。障害児および障害者において、これらのカテゴリーがどのような特徴をもつのか、数量化第3類を適用して分析を試みた。その結果、第1次元上で社会的対人的カテゴリーと基本的な生活カテゴリーを区別する軸が求められ、第2次元上では、自己調整力カテゴリーと自己管理カテゴリーを分ける軸が求められた。このように、施設利用の障害児・者に対する指導者の発達期待の内容としては、知的能力の向上というよりも、社会性並びに基本的な生活習慣スキルの改善・発達が指摘できる。また、障害児および障害者の差異に関して、各次元の軸上にサンプルプロットを合わせてみたところ、第1次元に関して、障害者の方が障害児と比べてより社会性に富み、社会生活への自立に向けた期待が寄せられる傾向にあった。一方、障害児では運動や健康、情緒的安定性に関する期待が寄せられる傾向が示された。これらは、施設指導者において、対象者の成長・発達レベルに基礎づけられた発達期待というよりも、集団生活あるいは社会生活への適応を踏まえた期待が特徴的であることを示している。このことは第2次元上で見いだされた自己調整カテゴリー及び自己管理カテゴリーで両者の間に差異が示されなかったことから指摘される。

調査2

目 的

障害児施設および知的障害者更生施設の入所児・者が、指導者からどのような期待を、どの程度寄せられているのか、両者の違いに注目しつつ分析・検討することを目的とする。

方 法

- 1) 調査対象 T県における障害児施設に入所している障害児 55名 (CA平均 186ヵ月, SD25ヵ月; MA83ヵ月, SD13ヵ月; IQ47.7, SD10.3) 及び指導員 30名 (指導員歴 18.5年, SD7.6年) 及び知的障害者更生施設に入所している障害者 50名 (CA平均 46.4, SD10.6; MA71ヵ月, SD13ヵ月; IQ37.2, SD9.5) 及び指導員 25名 (指導員歴 15.6年, SD5.2年)。
- 2) 調査内容 予備調査を踏えて「生活調査アンケート」を作成する。このアンケートは、身辺処理能力、情緒安定、社会・コミュニケーション、仲間、活動性、活動コントロール、金銭処理、作業態度、社会自立、余暇・充実、健康・運動の11カテゴリーからなる。質問項目については、先の11カテゴリーに関連して、予備調査から各カテゴリーにつき5項目を選択し、計55項目とする。各質問項目に対して、指導者は、5件法からなる評定値、つまり「ほとんど期待できない」(1点)、「あまり期待できない」(2点)、「なんとも言えない」(3点)、「まあまあ期待できる」(4点)、「かなり期待できる」(5点)の中から担当する対象者の各々に該当する評定値を選び評定する。
- 3) 調査期間と手続き 1995年9月中旬から10月中旬。施設単位で留め置き法。

結 果

1) 発達期待に関する因子分析

障害児・者の発達期待55項目に対する回答について、SMC法による因子分析を行ない、5因子構造を採用した。バリマックス回転後の結果を表1に示す。

表1 回転後の各項目の因子負荷量

| 項目名 | 因子負荷量 | | | | | 共通性 A・A t |
|--|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|--------------|
| | 因子1 | 因子2 | 因子3 | 因子4 | 因子5 | |
| 1 便意を感じたら自分でトイレに行って排便できる | 0.141565 | 0.1839911 | -0.265681 | -0.200167 | 0.4971074 | 0.4116622 |
| 2 手洗い、洗顔が自分できれいにできる | 0.2472148 | 0.4372844 | -0.33128 | -0.404572 | 0.5067378 | 0.7825408 |
| 3 自分で適切な洋服の着用ができる | 0.2220297 | 0.5167705 | -0.230818 | -0.281212 | 0.617944 | 0.8305607 |
| 4 自分のものの整理・管理ができる | 0.3776354 | 0.3613195 | -0.287196 | -0.341623 | 0.5626558 | 0.7889293 |
| 5 自分で食欲をコントロールし、適量を食べられる | 0.2618827 | 0.4753666 | -0.281448 | -0.259056 | 0.3957258 | 0.5974779 |
| 6 ほんの些細なことで腹を立てずにもう少し感情のコントロールができる | 0.2299274 | 0.821199 | -0.113534 | -0.221866 | 0.1977569 | 0.8297971 |
| 7 変化に対応して、いろいろな働きかけに対しても情緒的に安定できる | 0.2438174 | 0.7580957 | -0.249838 | -0.061967 | 0.1985387 | 0.7398328 |
| 8 生活リズムをつくり、気分転換を図ることで安定できる | 0.1898797 | 0.588774 | -0.178015 | -0.074382 | 0.2396151 | 0.4773505 |
| 9 精神的に不安定なため感情や行動面でのムラを押さえて、落ち着いて生活できる | 0.189003 | 0.7847678 | -0.274372 | -0.149616 | 0.1473938 | 0.7709712 |
| 10 情緒不安定な時の自傷や他傷に偏らずに我慢することができる | 0.2972482 | 0.7446923 | -0.237928 | -0.271736 | 0.1432435 | 0.7938921 |
| 11 自分の考えや要求を言葉に表し伝えることができる | 0.3716331 | 0.2863816 | -0.493165 | -0.196422 | 0.4703463 | 0.723145 |
| 12 周りから返事を必要とする内容で働きかけられることで、発語や意志表示を増やしてゆける | 0.3313922 | 0.2852765 | -0.492745 | -0.166952 | 0.5250421 | 0.737543 |
| 13 自分の気持ちを素直に表現し行動できる | 0.2430634 | 0.3210384 | -0.546381 | -0.151913 | 0.3798521 | 0.6280433 |
| 14 園内の行事に積極的に参加することができる | 0.3201524 | 0.3030941 | -0.563068 | -0.028873 | 0.4724945 | 0.7354877 |
| 15 集団に適応することができる | 0.141535 | 0.5793476 | -0.352041 | -0.09751 | 0.4163452 | 0.6624605 |
| 16 相手に攻撃的にならず、人の気持ちが考えられる | 0.3395803 | 0.64720504 | -0.399524 | -0.271296 | 0.2473444 | 0.8286478 |
| 17 人との関わりを広げ、交流ができる | 0.2718571 | 0.400044 | -0.70384 | -0.134616 | 0.2470926 | 0.8085081 |
| 18 人に対して、優しく教えてあげたり、世話をすることができる | 0.4142832 | 0.4750684 | -0.494718 | -0.184758 | 0.2788971 | 0.7539854 |
| 19 命令的、自己中心的行動を慎み、周囲と調和のとれた行動がとれる | 0.2445489 | 0.5695009 | -0.428235 | -0.326959 | 0.3402714 | 0.790207 |

| 項目名 | 因子負荷量 | | | | | 共通性 A・A t | |
|-----|-------------------------------------|-----------|-----------|-----------|------------|--------------|-----------|
| | 因子1 | 因子2 | 因子3 | 因子4 | 因子5 | | |
| 20 | 自分の非を認め、素直に謝ることができる | 0.1980702 | 0.4862821 | -0.531752 | -0.378322 | 0.19322 | 0.7389235 |
| 21 | 一つのことに関執せず、関心を外に開いてゆける | 0.2558143 | 0.4523793 | -0.600347 | -0.148173 | 0.1889148 | 0.6881484 |
| 22 | 周りを気にせず、集中して活動できる | 0.3346503 | 0.338027 | -0.410925 | -0.329147 | 0.3841501 | 0.6510221 |
| 23 | 誰かが誘導してくれるまで待っているのではなく、意欲的に活動できる | 0.3780932 | 0.2376421 | -0.654531 | -0.247419 | 0.3297333 | 0.797779 |
| 24 | 自課を守って時間配分を理解し、生活できる | 0.3382105 | 0.3900345 | -0.445384 | -0.408804 | 0.4198278 | 0.8082564 |
| 25 | 何にでもチャレンジするような意欲を持ち、自信を持つことができる | 0.3430185 | 0.2272751 | -0.697634 | -0.243334 | 0.2902606 | 0.799471 |
| 26 | 集中して課題や役割に取り組むことができる | 0.3030632 | 0.3773712 | -0.496227 | -0.45378 | 0.3632183 | 0.8183415 |
| 27 | 人の意見は素直に聞き、スムーズな行動をとることができる | 0.1773733 | 0.5022677 | -0.465171 | -0.453663 | 0.2287715 | 0.7582641 |
| 28 | 自分の不満を他人にぶつけずにトラブルを避けることができる | 0.1851951 | 0.6690779 | -0.232864 | -0.484909 | 0.0819937 | 0.7780481 |
| 29 | 自分の要求が通らない時、少し待つことができる | 0.3109552 | 0.6635107 | -0.242173 | -0.363512 | 0.1113901 | 0.7401362 |
| 30 | 自分のしなければならぬ課題や役割に対し責任感をもつことができる | 0.3901019 | 0.4924311 | -0.391778 | -0.417791 | 0.2602146 | 0.7904191 |
| 31 | 自分で買物ができる | 0.6877085 | 0.2658603 | -0.37482 | -0.156702 | 0.2423986 | 0.7674269 |
| 32 | バスやJRの利用方法を覚え、どこにでも行くことができる | 0.7289844 | 0.3267429 | -0.281591 | -0.083528 | 0.1412029 | 0.7443876 |
| 33 | 銀行へ行って預金を下ろすことができる | 0.8469847 | 0.2064524 | -0.222612 | -0.058249 | 0.1558822 | 0.837254 |
| 34 | 一ヶ月の小遣いを自分で管理できる | 0.8049935 | 0.2423707 | -0.251384 | -0.137951 | 0.1652883 | 0.8163028 |
| 35 | 予算内で自分のほしいものを買うことができる | 0.7553773 | 0.3071078 | -0.244288 | -0.133067 | 0.2147944 | 0.788403 |
| 36 | 作業中周りの人が困っていれば、自分から進んで手伝うことができる | 0.5838841 | 0.3174665 | -0.38046 | -0.313296 | 0.2699895 | 0.7575035 |
| 37 | 落ち着いて行動できる | 0.3908258 | 0.5800881 | -0.234134 | -0.285702 | 0.2401988 | 0.6833871 |
| 38 | 一度の指示で作業への行動に移すことができる | 0.3453674 | 0.4233918 | -0.31567 | -0.50969 | 0.2761326 | 0.7342204 |
| 39 | 自分から作業内容の間違いに気づき、直そうとする | 0.3815772 | 0.4448681 | -0.283361 | -0.494498 | 0.3513908 | 0.7918062 |
| 40 | 細かい作業ができる | 0.3225563 | 0.3851586 | -0.175925 | -0.60254 | 0.2872557 | 0.7289098 |
| 41 | 社会自立を意識して、毎日を過ごすことができる | 0.6241015 | 0.2820813 | -0.296693 | -0.485307 | 0.2529367 | 0.8565994 |
| 42 | 社会自立を意識して、いろんな訓練に取り組むことができる | 0.6269004 | 0.2782541 | -0.305374 | -0.461557 | 0.2735083 | 0.8515244 |
| 43 | 社会自立を意識して、言われなくとも自主的に何事もきちんとできる | 0.5877484 | 0.2349636 | -0.358129 | -0.474117 | 0.2814606 | 0.8329194 |
| 44 | 社会自立を意識して、社会との関わりを大事にすることができる | 0.6662252 | 0.2837795 | -0.368434 | -0.424193 | 0.2259218 | 0.891111 |
| 45 | 社会自立を意識して、職場実習を進めることができる | 0.6839091 | 0.251324 | -0.33412 | -0.417285 | 0.2011585 | 0.857123 |
| 46 | コーヒを飲んだり歌を歌ったりして、楽しむことを多くもつことができる | 0.4178831 | 0.2895881 | -0.577507 | -0.19305 | 0.2666588 | 0.7003771 |
| 47 | 自分自身の生活を納得いくものにしてゆくことができる | 0.5542001 | 0.3268367 | -0.486873 | -0.375045 | 0.2056981 | 0.8339757 |
| 48 | 自分の興味を増やしてゆくことができる | 0.3727628 | 0.2330379 | -0.715979 | -0.328454 | 0.1418301 | 0.833832 |
| 49 | 社会への関心をもつことができる | 0.5122288 | 0.198674 | -0.662915 | -0.264967 | 0.1158861 | 0.8249428 |
| 50 | 余暇を楽しんで、みんなとの交流を増やすことができる | 0.3478514 | 0.2783965 | -0.758743 | -0.098891 | 0.1916654 | 0.8207112 |
| 51 | 健康に注意し、体調維持に気を配ることができる | 0.4241428 | 0.3665137 | -0.473264 | -0.36996 | 0.3112663 | 0.7719651 |
| 52 | 服薬がきちんとできる | 0.3583317 | 0.3058497 | -0.263948 | -0.215681 | 0.5486721 | 0.6391737 |
| 53 | 体重のコントロールに気を付け、運動することができる | 0.385058 | 0.2781106 | -0.389403 | -0.438936 | 0.3827235 | 0.716392 |
| 54 | 睡眠を毎日きちんと取ることができる | 0.2459097 | 0.4384833 | -0.178906 | -0.0714686 | 0.3351011 | 0.4021472 |
| 55 | 自分で歩行訓練や機能訓練で、運動能力を向上しようと努力することができる | 0.5422936 | 0.1766163 | -0.489715 | -0.288074 | 0.3821517 | 0.7941225 |
| | 寄与量 | 10.360961 | 10.120127 | 9.7723748 | 5.636857 | 5.4461282 | 41.336448 |
| | 寄与率 | 25.1% | 24.5% | 23.6% | 13.6% | 13.2% | 100.0% |
| | 変動割合 | 18.8% | 18.4% | 17.8% | 10.2% | 9.9% | 75.2% |

まず第1因子は、「人に対して、優しく教えてあげたり、世話をすることができる」、「自分で買物ができる」、「バスやJRの利用方法を覚え、どこにでも行くことができる」、「銀行へ行って預金を下ろすことができる」、「1ヶ月の小遣いを自分で管理できる」、「予算内で自分のほしいものを買うことができる」、「作業中、周りの人が困っていれば、自分から進んで手伝うことができる」、「細かい作業ができる」、「社会自立を意識していろいろな訓練に取り組むことができる」、「社会自立を意識して言われなくても自発的に何事もきちんとできる」、「社会自立を意識して社会との関わりを大事にすることができる」、「社会自立を意識して職場実習を進めることができる」、「コーヒーを飲んだり、歌をうたったりして楽しむことを多く持つことができる」、「自分自身の生活を納得のいくものとしていくことができる」、「社会への関心をもつことができる」、「健康に注意し、体調維持に気を配ることができる」、「自分で歩行訓練や機能訓練で、運動能力を向上しようと努力することができる」の17項目であり、〈社会生活態度の向上〉と命名した。第2因子は、「手洗い、洗顔が自分できれいにできる」、「自分で食欲をコントロールし、適量を食べられる」、「ほんの些細なことで腹を立てずにもう少し感情のコントロールができる」、「変化に対応して、いろいろな働きかけに対して情緒的に安定できる」、「生活リズムをつくり、気分転換を図ることで安定できる」、「精神的に不安定なため感情や行動面でのムラを押えて、落ちついて生活できる」、「情緒不安定な時の自傷や他傷に偏らずに我慢することができる」、「集団に適応することができる」、「相手に攻撃的にならず、人の気持ちと考えられる」、「人との関わりを広げ、交流できる」、「人に対して、優しく教えてあげたり、世話をすることができる」、「命令的、自己中心的行動を慎み、周囲と調和のとれた行動ができる」、「自分の非を認め、素直に謝ることができる」、「一つのことに固執せず、関心を外に開いていける」、「人の意見は素直に聞き、スムーズな行動をとることができる」、「自分の不満を他の人におつげずトラブルを避けることができる」、「自分の要求が通らないとき、少し待つことができる」、「自分のしなければならぬ課題や役割に対し、責任感を持つことができる」、「落ち着いて行動できる」、「一度の指示で作業への行動に移すことができる」、「自分から作業内容の間違いに気づき、直そうとする」、「睡眠を毎日きちんと取ることができる」の22項目であり、〈情緒安定・活動コントロール〉と命名した。第3因子は、「自分の考えや要求を言葉に表し、伝えることができる」、「周りからの返事を必要とする内容で働きかけられることで、発語や意志表示を増やしていける」、「自分の気持ちを素直に表現し行動できる」、「園内の行事に積極的に参加することができる」、「人との関わりを広げ、交流できる」、「人に対して優しく教えてあげたり、世話をすることができる」、「命令的、自己中心的行動を慎み、周囲と調和のとれた行動ができる」、「自分の非を認め、素直に謝ることができる」、「一つのことに固執せず、関心を外に開いていける」、「周りを気にせず、集中して活動できる」、「誰かが誘導してくれるまで待っているのではなく、意欲的に活動できる」、「日課を守って時間配分を理解し、生活できる」、「何にでもチャレンジするような気持ちを持ち、自信を持つことができる」、「集中して課題や役割に取り組むことができる」、「人の意見は素直に聞き、スムーズな行動をとることができる」、「コーヒーを飲んだり、歌を歌ったりして楽しむことを多く持つことができる」、「自分自身の生活を納得のいくものとしていくことができる」、「自分の興味を増やしていくことができる」、「社会への関心をもつことができる」、「余暇を楽しんで、みんなとの交流を増やすことができる」、「健康に注意し、体調維持に気を配ることができる」、「自分で歩行訓練や機能訓練で、運動能力を向上しようと努力することができる」の22項目であり、〈対人関係・自己表現〉と命名した。第4因子は、「手洗い、洗顔が自分できれいにできる」、「日課を守って時間配分を理解し、生活できる」、「集中して課題や役割に取り組むことができる」、「人の意見は素直に聞き、スムーズな行

動をとることができる]、「自分の不満を他の人につけずトラブルを避けることができる]、「自分のしなければならない課題や役割に対し、責任感を持つことができる]、「一度の指示で作業への行動に移すことができる]、「自分から作業内容の違いに気づき、直そうとする]、「細かい作業ができる]、「社会自立を意識して、毎日を過ごすことができる]、「社会自立を意識していろいろな訓練に取り組むことができる]、「社会自立を意識して、言われなくても自発的に何事もきちんとできる]、「社会自立を意識して、社会との関わりを大事にすることができる]、「社会自立を意識して、職場実習を進めることができる]、「体重のコントロールに気をつけ、運動することができる」の15項目であり、〈向社会性〉と命名した。そして第5因子は、「便意を感じたら自分でトイレへ行って排便できる]、「手洗い、洗顔が自分できれいにできる]、「自分で適切な洋服の着用ができる]、「自分の物の整理・管理ができる]、「自分の考えや欲求を言葉に表し伝えることができる]、「まわりから返事を必要とする内容で働きかけられることで、発語や意志表示を増やしてゆける]、「行事に積極的に参加することができる]、「集団に適応することができる]、「日課を守って時間配分を理解し、生活できる]、「服薬がきちんとできる」の10項目であり、〈身辺処理能力〉と命名した。

抽出された5因子で、全分散の75.2%を説明している。また、それぞれの因子の相対分散をみると、第1因子〈社会生活態度の向上〉が25.1%となり、第2因子〈情緒安定・活動コントロール〉が24.5%となり、そして第3因子〈対人関係・自己表現〉が23.6%となっており、因子の相対的比重に関して、これら3つの因子の比率が高くなっている。このことから、指導者の発達期待における「社会生活態度の因子]、「情緒安定・活動コントロールの因子]、「対人関係・自己表現の因子]、の比重が大きいことがうかがわれる。

2) 因子得点の比較

次に、5つの因子別に各個人の因子得点を求めた。障害児群および障害者群の因子得点の平均値は表2に示されている。

表2 各群の因子得点平均

| | I | II | III | IV | V |
|-----------|------------------|-----------------|------------------|-----------------|------------------|
| 入所児童施設障害児 | -.276 (1.044) | -.033 (.930) | -.011 (1.198) | .139 (1.056) | -.340 (1.246) |
| 更生施設障害者 | .304 (.948) | .036 (1.161) | .013 (.874) | .153 (1.128) | .374 (.798) |

I～Vは因子

* ()内はSD

第I因子では、障害児がマイナスの値となっているのに対して、障害者はプラスの値であり、前者の方が低くなった。これは、社会生活態度の向上について、指導者の発達期待は障害児の方が障害者よりも低いことを意味している。第II・第III因子では、第I因子程ではないが、障害児の方が障害者よりも若干低くなっており、同時に両群ともに低い値である。これは指導者が障害児および障害者に対してともに情緒安定や活動コントロールの面でそれ程期待しているわけではないことを意味し、併せてそのような傾向は障害児の方で若干強いことを意味している。第IV因子では、両群ともにそれ程高くはないがプラスであり、施設指導者は、障害児でも障害者でも同じように集団生活のなかで自己調整をしたり、社会性のある行動をとることを期待する傾向にあることを意味している。そして、第V因子では、障害児がマイナス、障害者がプラスと2分され

ている。これは、障害児よりも障害者に対して、施設指導者が身辺処理能力の向上を期待する傾向にあることを示している。

3) 発達の分析

障害児および障害者について、各々の項目間の発達差をt検定を用いてみる。

表3 各群の各項目における平均期待得点

| 項目 | 全体平均 | S D | 障害者平均 | S D | 障害児平均 | S D | 発達差 |
|----|-----------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----|
| 1 | 4.5619048 | 0.9250360 | 4.86 | 0.4004997 | 4.2909091 | 1.1547960 | ** |
| 2 | 3.7809524 | 1.3308139 | 4.18 | 1.0897706 | 3.4181818 | 1.4230685 | ** |
| 3 | 3.6285714 | 1.2052041 | 4.02 | 1.0097524 | 3.2727273 | 1.2570463 | ** |
| 4 | 3.3714286 | 1.3610720 | 3.94 | 1.1029053 | 2.8545455 | 1.3673888 | *** |
| 5 | 3.2952381 | 1.3517101 | 3.74 | 1.2619033 | 2.8909091 | 1.3027625 | ** |
| 6 | 3.0952381 | 1.0912973 | 3.32 | 1.0851728 | 2.8909091 | 1.0561117 | * |
| 7 | 3.2000000 | 1.1246163 | 3.40 | 1.1489125 | 3.0181818 | 1.0701047 | |
| 8 | 3.4857143 | 1.0430202 | 3.50 | 1.0246951 | 3.4727273 | 1.0592372 | |
| 9 | 3.3047619 | 1.1557213 | 3.56 | 1.2026637 | 3.0727273 | 1.0592372 | * |
| 10 | 3.3333333 | 1.2318524 | 3.70 | 1.1532563 | 3.0000000 | 1.2060454 | ** |
| 11 | 3.2952381 | 1.4069475 | 3.74 | 1.1280071 | 2.8909091 | 1.5096385 | ** |
| 12 | 3.4666667 | 1.3025006 | 3.86 | 1.0200000 | 3.1090909 | 1.4228362 | ** |
| 13 | 3.3619048 | 1.1474511 | 3.54 | 0.9840732 | 3.2000000 | 1.2562571 | |
| 14 | 3.6380952 | 1.2120334 | 4.06 | 0.9254188 | 3.2545455 | 1.3103529 | *** |
| 15 | 3.5523810 | 1.1125342 | 3.68 | 1.0087616 | 3.4363636 | 1.1872602 | |
| 16 | 2.9333333 | 1.2052794 | 3.28 | 1.0590562 | 2.6181818 | 1.2430302 | ** |
| 17 | 3.0666667 | 1.2209806 | 3.30 | 1.0246951 | 2.8545455 | 1.3405315 | |
| 18 | 3.0380952 | 1.4204212 | 3.48 | 1.1702991 | 2.6363636 | 1.5059112 | ** |
| 19 | 2.9428571 | 1.1777992 | 3.34 | 1.0697663 | 2.5818182 | 1.1550822 | *** |
| 20 | 3.0000000 | 1.2344268 | 3.26 | 1.0355675 | 2.7636364 | 1.3479093 | * |
| 21 | 2.8285714 | 1.1166032 | 3.00 | 1.0198039 | 2.6727273 | 1.1763510 | |
| 22 | 2.9619048 | 1.1205765 | 3.26 | 1.0160709 | 2.6909091 | 1.1421308 | ** |
| 23 | 2.9428571 | 1.1197667 | 3.22 | 0.8553362 | 2.6909091 | 1.2630803 | * |
| 24 | 3.1047619 | 1.4271104 | 3.52 | 1.2843675 | 2.7272727 | 1.4454260 | ** |
| 25 | 2.5714286 | 1.1114739 | 2.88 | 0.9086253 | 2.2909091 | 1.2011014 | ** |
| 26 | 3.0000000 | 1.2188988 | 3.28 | 0.9806121 | 2.7454545 | 1.3513385 | * |
| 27 | 2.9523810 | 1.0635158 | 3.22 | 0.9856977 | 2.7090909 | 1.0731894 | * |
| 28 | 2.8761905 | 1.1847864 | 3.12 | 1.0888526 | 2.6545455 | 1.2242724 | * |
| 29 | 3.0952381 | 1.2229847 | 3.32 | 1.1391225 | 2.8909091 | 1.2601981 | |
| 30 | 2.8666667 | 1.3314272 | 3.22 | 1.1711533 | 2.5454545 | 1.3858792 | ** |
| 31 | 2.6666667 | 1.3498971 | 3.12 | 1.1426285 | 2.2545455 | 1.3911170 | *** |
| 32 | 2.2380952 | 1.1753322 | 2.58 | 1.0017984 | 1.9272727 | 1.2336869 | ** |
| 33 | 1.9809524 | 1.0777486 | 2.40 | 1.0770330 | 1.6000000 | 0.9263810 | *** |
| 34 | 1.9714286 | 1.1251001 | 2.38 | 1.1981653 | 1.6000000 | 0.9065149 | *** |
| 35 | 2.1809524 | 1.2249855 | 2.50 | 1.1357817 | 1.8909091 | 1.2310044 | * |
| 36 | 2.6095238 | 1.2535302 | 3.22 | 1.0637669 | 2.0545455 | 1.1507813 | *** |
| 37 | 3.2000000 | 1.1075498 | 3.46 | 1.0809255 | 2.9636364 | 1.0781067 | * |
| 38 | 3.1904762 | 1.3945147 | 3.78 | 1.3159027 | 2.6545455 | 1.2390345 | *** |
| 39 | 2.9619048 | 1.2718476 | 3.38 | 1.0934350 | 2.5818182 | 1.3030162 | ** |
| 40 | 2.8095238 | 1.1879974 | 3.18 | 0.9937807 | 2.4727273 | 1.2483377 | ** |
| 41 | 2.2571429 | 1.1549362 | 2.58 | 0.9400000 | 1.9636364 | 1.2499256 | ** |
| 42 | 2.3047619 | 1.1639327 | 2.62 | 0.9141116 | 2.0181818 | 1.2861628 | ** |
| 43 | 2.1714286 | 1.0641978 | 2.52 | 0.9846827 | 1.8545455 | 1.0342882 | ** |
| 44 | 2.0952381 | 1.0002267 | 2.42 | 0.9184770 | 1.8000000 | 0.9797959 | ** |
| 45 | 2.2190476 | 1.1545434 | 2.52 | 1.0047885 | 1.9454545 | 1.2123333 | * |
| 46 | 2.9904762 | 1.2382417 | 3.38 | 0.9141116 | 2.6363636 | 1.3799030 | ** |
| 47 | 2.4476190 | 1.1039406 | 2.84 | 0.9024411 | 2.0909091 | 1.1484809 | *** |
| 48 | 2.6857143 | 1.1897522 | 2.88 | 0.9927739 | 2.5090909 | 1.3194038 | |
| 49 | 2.3714286 | 1.1148960 | 2.64 | 0.9951884 | 2.1272727 | 1.1607920 | * |
| 50 | 2.8000000 | 1.2451812 | 3.00 | 1.0583005 | 2.6181818 | 1.3683555 | |
| 51 | 2.5714286 | 1.1699177 | 3.04 | 1.0384604 | 2.1454545 | 1.1187360 | *** |
| 52 | 3.1142857 | 1.3403218 | 3.70 | 1.1000000 | 2.5818182 | 1.3168959 | *** |
| 53 | 2.3714286 | 1.0534039 | 2.74 | 0.9123596 | 2.0363636 | 1.0611081 | *** |
| 54 | 3.7714286 | 1.1972758 | 4.00 | 0.9797959 | 3.5636364 | 1.3316242 | |
| 55 | 2.4476190 | 1.0865494 | 2.90 | 0.9219544 | 2.0363636 | 1.0611081 | *** |

七検定 * P < .05, ** P < .01, *** P < .001

その結果が表3である。発達差とは、ここでは精神年齢(MA)の違いではなく、生活年齢(CA)の差異を意味する。

社会生活態度に関連した項目、すなわち、18. 人に対して、優しく教えてあげたり、世話をすることができる、31. 自分で買い物ができる、32. バスやJRの利用方法を覚え、どこにでも行くことができる、33. 銀行に行って預金を下ろすことができる、34. 1ヶ月の小遣いを自分で管理できる、35. 予算内で自分のほしいものを買うことができる、41. 細かい作業ができる、42. 社会自立を意識して、いろんな訓練に取り組むことができる、43. 社会自立を意識して、言われなくても自主的に何事もきちんとできる、44. 社会自立を意識して、職場実習を進めることができる、46. コーヒーを飲んだり歌ったりして、楽しむことを多く持つことができる、47. 自分自身の生活を納得いくものにしてゆけることができる、49. 社会への関心をもつことができる、51. 健康に注意し、体調維持に気を配ることのできる、55. 自分で歩行訓練や機能訓練で、運動能力を向上しようと努力することができる、については障害児から障害者にかけて平均得点の増加傾向が認められた。これは年長になるにしたがって、指導者の期待には社会生活の適応が含まれることを意味しているのであろう。

情緒安定・活動コントロールに関連した項目では、2. 手洗い、洗顔が自分でできる、5. 自分で食欲をコントロールし、適量を食べられる、6. ほんの些細なことで腹を立てずにもう少し感情のコントロールができる、9. 精神的に不安定なため感情や行動面でのムラを押えて、落ち着いて生活できる、10. 情緒不安定なときの自傷や他傷に偏らずに我慢することができる、16. 相手に攻撃的にならず、人の気持ちが考えられる、18. 人に対して、優しく教えてあげたり、世話をすることができる、19. 命令的、自己中心的行動を慎み、周囲と調和のとれた行動がとれる、20. 自分の非を認め、素直に謝ることができる、27. 人の意見は素直に聞き、スムーズな行動をとることができる、28. 自分の不満を他の人にもぶつけずトラブルを避けることができる、30. 自分のしなければならぬ課題や役割に対し、責任感をもつことができる、37. 落ち着いて行動できる、38. 一度の指示で作業への行動に移すことができる、39. 自分から作業内容の間違いに気づき、直そうとする、などに関して、障害児から障害者にかけて平均得点の有意な増加が認められた。これは、年長になるにしたがって、指導者は主として対人関係場面および作業場面などで感情をコントロールし、積極的に自己調整することを期待すると考えられる。

対人関係、自己表現に関連した項目、つまり11. 自分の考えや要求を言葉に表し伝えることができる、12. 周りから返事を必要とする内容で働きかけられることで、発語や意志表示を増やしていける、14. 園内の行事に積極的に参加することができる、18. 人に対して優しく教えてあげたり、世話をすることができる、19. 命令的、自己中心的行動を慎み、周囲と調和のとれた行動がとれる、20. 自分の非を認め、素直に謝ることができる、22. 周りを気にせず、集中して活動できる、23. 誰かが誘導してくれるまで待っているのではなく、意欲的に活動できる、24. 日課を守って、時間配分を理解し、生活できる、25. 何にでもチャレンジするような気持ちを持ち、自信をもつことができる、26. 集中して課題や役割に取り組むことができる、27. 人の意見を素直に聞き、スムーズな行動をとることができる、46. コーヒーを飲んだり歌をうたったりして楽しむことを多く持つことができる、47. 自分自身の生活を納得いくものにしていける、51. 健康に注意し、体調維持に気を配ることができる、55. 自分で歩行訓練や機能訓練で、運動能力を向上しようと努力することができる、などについては障害児から障害者にかけて平均得点が増加する傾向にあった。これは、年長になるにしたがって、指導者が自律的・意欲的行動を期待したり、他との協調性を期待していることを意味する。

向社会性に関連した項目では、つまり、2. 手洗い、洗顔が自分できれいにできる、24. 日課を守って時間配分を理解し、生活できる、26. 集中して課題や役割に取り組むことができる、27. 人の意見を素直に聞き、スムーズな行動をとることができる、28. 自分の不満を他の人につけずトラブルを避けることができる、30. 自分のしなければならない課題や役割に対し、責任感をもつことができる、38. 一度の指示で作業への行動に移すことができる、39. 自分から作業内容の間違いに気づき、直そうとする、40. 細かい作業ができる、41. 社会自立を意識して、毎日を過ごすことができる、42. 社会自立を意識して、いろんな訓練に取り組むことができる、43. 社会自立を意識して、言われなくても自主的に何でもきちんとできる、44. 社会自立を意識して、社会との関わりを大事にすることができる、45. 社会自立を意識して、職場実習をすすめることができる、53. 体重のコントロールに気をつけ、運動することができる、などについて、障害児から障害者にかけて、平均得点が増加傾向にあった。これは、指導者が障害児の加齢に対して社会的行動の発達と充実を期待していることを意味する。

身辺処理能力に関する項目、つまり、1. 便意を感じたら自分でトイレに行って排便できる、2. 手洗い、洗顔が自分できれいにできる、3. 自分で適切な洋服の着用ができる、4. 自分の物の整理、管理ができる、11. 自分の考えや要求を言葉に表し、伝えることができる、12. 周りから返事を必要とする内容で働きかけられることで、発語や意志表示を増やしてゆける、14. 園内の行事に積極的に参加することができる、24. 日課を守って時間配分を理解し、生活できる、52. 服薬がきちんとできる、などについて障害児から障害者にかけて平均得点の増加傾向が認められた。これは、指導者が障害児の加齢に対して、日常生活のスキルの向上を期待していることを意味する。

以上の点から、社会生活態度、情緒安定・活動コントロール、対人関係・自己表現、向社会性、そして身辺処理能力の5つの因子に関係する各々の項目で、障害児から障害者にかけて平均得点の増加傾向が認められた。このことは、施設指導者によって、障害者は現在及び将来の生活に適応していくために、比較的より多くの側面から期待をかけられていることを示唆している。

考 察

障害児・者に対する施設指導者の期待に関して、調査2の結果、知的能力の向上よりもむしろ社会生活や職業生活に関連する社会適応能力の進歩が中心となるものであった。期待の構造から見ると、指導者の期待は、社会生活への態度、情緒安定・活動コントロール、対人関係処理・自己表現、向社会行動、そして身辺処理の5因子に区別された。障害児施設あるいは知的障害者更正施設に居住し、集団生活を行っている障害児あるいは障害者にとって、近い将来、あるいは遠い将来彼らが自立できるように身辺処理能力を高めたり、作業スキルを向上させたり、あるいは他者とのコミュニケーション能力を身につけたりするような指導者からの多様な期待を受けていると言えよう。ただ調査1とも関係して、指導者の期待カテゴリー及び指導者の期待構造のなかに障害児・者の言語能力・計数能力あるいは社会認識や自然認識などの諸能力の向上が含まれていなかったのは、一体なぜであろうか。1979年の養護学校教育の義務制施行以来、今日まで施設内学級あるいは近隣の養護学校で施設居住の障害児は学校教育を通して基礎学力あるいは認知能力を保障されるようになり、施設指導者の知的発達に対する関心も高まってきているところである。今後、障害の種類及び障害の程度とも関連づけて、この点を分析・検討する必要があるだろう。また、障害者においても職場適応および作業能力の視点から、言語能力・計数能力の獲得は大前提であり、これらが指導者の期待カテゴリーを構成しなかったのは一種の驚きである。

身辺処理のレベルから社会適応レベルまでの社会適応に指導者の期待が障害児と障害者の間で違いを示した。社会生活への態度については、指導者は障害児よりも障害者の方により強い期待を寄せていた。これは、予想した通り、障害者の場合、施設環境下で個々の役割分担や作業が明確に設定され責任ある行動を求められていることに由来するでだろう。このことは Bybee & Zigler (1990) の述べた MA と外的指向性の正の相関についての解釈、つまり施設指導者の期待は障害者の MA が高くなればなるほど高くなり、それだけ障害者の外的指向性は強くなるだろう、という点に関係しているであろう。Bybee らが言う指導者の期待とは、主にこの社会生活への態度のことであろう。次に、情緒安定・活動コントロールおよび対人関係・自己表現などに関して、指導者の障害児・者に対する期待はいずれもそれ程高くなかった。その上この種の期待は障害児と障害者の間に顕著な差異を示さなかった。このことは、施設指導者の発達観並びに障害観と密接に関係しているだろう。彼らが、障害をもちつつ成長・発達している障害児・者の自我の誕生・拡大・充実、そして自己形成までの発達過程を充分理解し実践しているとしたら、この両期待成分の結果は異なることが予想される。そして向社会性についてはそれ程高くないが、障害児及び障害者ともに同程度に期待がよせられていた。これは、両者に共通する施設環境下での集団生活において、生活のリズムを徹底し、ルールを守り、そして他者との共同生活に積極的になれるように期待されているためだろう。ただ障害者にとって、施設内作業あるいは施設外労働と施設内生活という、いわゆる「生活すること」と「働くこと」の2本立の世界を有しているという事実を考えてみると、指導者からの、「生活の主人公」としての期待をもっと受容してよいのではないだろうか。最後に、身辺処理に関して、施設指導者の期待成分のなかでも最も大きな差異を示したものであり、障害児に比べて障害者への期待は非常に高かった。これは、基本的な生活習慣と自立を含めて、集団生活のなかでいわゆる〈自分のことは自分でする〉ことを、年長になればなる程障害者は指導者から期待されると言えよう。

発達の観点から施設指導者の障害児・者への期待を検討した結果からも、上述した因子得点結果の差異の考察と同様に、障害児は、年長になればなる程、指導者から多様な期待を比較的強くよせられていると考えられる。

今後、施設指導者の期待が障害児・者の障害の種類と態度、発達観・障害観との関係、発達の質的転換期との関係、そして、実践レベルとのかかわり、および障害児・者の行動との関係などについて検討する必要がある。

文 献

1. Bybee, J., Ennis, P., & Zigler, E. 1990 Effects of Institutionalization on the self-concept and outerdirectedness of adolescents with mental retardation. *Exceptionality* 1, 215-26
2. 浜名外喜男 1988 教師が変われば子どもも変わる. 北大路書房
3. 今泉信人・山口修司 1988 子どもの達成動機と父親、母親の日常的相互交渉の関連の検討. 広島大学教育学部紀要 第1部, 第37号 181 - 190
4. 前田健一 1990 幼児の仲間関係に関する研究 - 仲間内地位と社会成熟度・有能感・受容感・母親の発達期待 - 愛媛大学教育学部大学紀要 教育科学 第36巻 211 - 226
5. Rosenthal, R. & Jacobson, L. 1968 *Pygmalion in the Classroom*, Holt, Rinehart & Winston.
6. 詫摩武俊他 1985 幼稚園児を持つ母親たちの発達期待に関する研究. - 良い子・悪い子・ふつうの子 - 人文学報 1-14